

## 挨拶文化のすすめ

「ありがとうございます」の微笑みは、人の心を和ませてくれる。

感謝の言葉を聞いて、怒る人はいないだろう。笑顔で挨拶されて、気分を害する人もいないだろう。若しいたとするならば、その人には相当な事情があるか、ひねくれ者とか、私には思えてならない。「こんにちは」「ありがとう」などを、挨拶文化と考えたらどうだろう。

S家には「先ず、挨拶をしよう。何時でも、何処でも、誰にでも『おはようございます』から『おやすみなさい』まで、『ありがとうございます』の感謝の心は笑顔で伝えよう。みんな快くなるから」。このように、黒々とした筆字で書かれた額が飾られている。

ある奉仕活動をしている団体の、会員間で歌われる一つに、次の様な歌詞があります。

「どこで会ってもやあとと言おうよ 見つけた時にゃおいと呼ぼうよ 遠い時には手を振り合おうよ それでこそ〜〜」。 (挨拶の大切さを、呼びかけている歌と理解している)

各地の街を歩くと「挨拶通り」というのぼり旗が目につく。みんな同じだ「挨拶」は、必要で大切なものと思っている事がよく分かる。挨拶語は山ほどあります。「ありがとうございます」

「すみません」この声を聞くと本当に気持ちいい、誰でも素直な感情で受け止められるのではないだろうか。四つのテストと言うのがある「真実かどうか、みんなに公平か、好意と友情を深めるか、みんなのためになるかどうか」計画・実践や行動に注意を喚起しているのです。これは、家庭や学校、地域や職場、サークルやその他の団体でも、応用できることでしょう。

Hさんは、家庭教育の重要さをしっかりと認識し、子供の教育をしている。学問だけを重視している訳ではない。それよりも、常識・善悪・道徳などこれから子供たちが成長していく過程の大切さに重きを置き、躰を厳しくしているのだ。6人家族(おじいちゃん・おばあちゃん、ご両親とお子さん達)で、家族全員がとても仲がいい。特に感心するのは、お姑さんとお嫁さんで、本当の親子以上に仲がいいのである。子供さんも「おじいちゃん・おばあちゃん」と呼んでなついでいるから、争いごとがないようだ。この最たる理由の一つには、Hさん宅では「ありがとう」「ごめんなさい」を大切にしているからだと思う。

現代は地域(隣近所)や職場・各種団体などでも、顔は知っているが名前は知らない、顔付きや態度が気に入らないから、面倒くさいから等の理由だけで挨拶をしない人がいる。

でも、目が合ったら会釈くらいは出来るだろうと思うけれど、それもしない。

生まれも育ちも、環境や教育も、特に大人になってからは、職業を初めいろいろな分野での経験や体験することが違う。その山積された中から、自分の思想や信念が構築されていくのだから、思考や発言・行動に差異があっても不思議ではない。だからこそ、意見交換の場や会議などで喧々諤々があるのだ。そこで言いたい、「挨拶と笑顔」「ありがとう」の感謝の心「ごめんなさい」の素直な心を忘れなければ、人との融和が図れると思うのだが如何でしょう。

{みんなで、「挨拶文化」を推進しよう} 各地域や学校・職場・団体等での啓発を期待します。